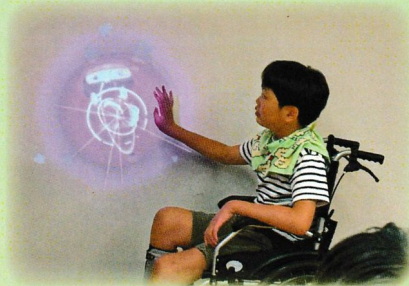


教育のあゆみ No. 46

令和6年度



学びを深め合う“令和の子どもたち”をめざして

可愛らしいサンタさんのイラスト画像を見つけ、Pagesアプリに貼り付けて作った原稿を、自分で Wi-Fi 接続プリンタで印刷し、慎重に切り取ってボウリングピンを彩り、クリスマス会を盛り上げようとする。そんな子どもたちの姿からも、タブレット端末を中心とした日常的な ICT 活用の根付きや、選択や表現、チャレンジの広がりを感じます。

「子どもが学びを深めようとする授業づくりⅢ～効果的な ICT 活用」を校内研究テーマに掲げ、ICT 活用を核とした実践 3 年目の今年度は、「デジタルとリアルベストミックス」をキーワードに、子どもたち一人一人に応じた ICT 活用の充実と、情報活用能力の計画的な指導に力を入れ、研究チームごとに授業改善を重ねることができました。この三年間、ICT 支援部の力強いリーダーシップのもと、教職員が学舎連携も大事にしながら切磋琢磨を重ね、子どもたちが主体的に学びを深め合う姿を引き出したことは、アンケート結果からも見えてきます。授業実践の際に、SUT（ステップアップトーク）と名付けた事後研究会で、指導支援の良さを中心に話す前向きな研修会ができたことも、特筆したい成果です。また、パナソニック教育財団実践研究助成と地域支援により、デジリハルームの整備や視線入力装置の導入も叶い、活用の充実を図っているところです。今後も、皆様と共に、個別最適な学びと協働的な学びを実現し、一人一人の夢や希望、自立と社会参加につながる力を育めるように、一層努めてまいります。

県教育局特別支援教育課指導主事 梶沼 彩子 様、県立鶴岡養護学校おひさま分教室教頭 工藤 隆範 様、県立楯岡特別支援学校大江校教頭 青柳 リエ子 様には、公開授業研究会の講師として、授業改善の視点を深める示唆に富んだ御助言をいただき、心より感謝申し上げます。

本リーフレットには、学校研究の概要を掲載しており、QRコードにより、授業実践の資料等も御覧いただけます。皆様の温かな御支援に心より感謝申し上げますとともに、本校の学校研究に忌憚のない御意見・御指導を賜れば幸いです。

令和7年2月 山形県立新庄養護学校 校長 伊藤 順子

研究主題 子どもが学びを深めようとする授業づくりⅢ ～効果的なICTの活用を通して～

＊主題設定の理由

社会的背景

- ・ Society5.0 の到来
…社会生活や職業のあり方の変化
- ・ 学習指導要領に「情報活用能力の育成」が明記
- ・ GIGA スクール構想
…教員の ICT を活用した指導力の向上

本校の実態（～令和3年度）

- ・ 各学級に一台端末を整備し、クラウドの利用やオンラインによる交流学习等を推進
- ・ 全校的に大型モニターによる教材提示等を行うICTを活用した授業を実施
- ・ 詳しい教員が中心に児童生徒用端末の活用を実施
- ・ 使い方・活用のメリットの共有が必要

研究の概要



変化する社会に対応する「生きる力」を育むため、学習での ICT 活用は必要不可欠

→ 教員の意識改革と知識・技能の向上を目指したい。

＊研究のねらい

- ・ 教員の ICT を効果的に活用する授業づくりに関する専門性の向上を図る。
- ・ 児童生徒が ICT を活用する良さが分かり、自ら活用して学習を深めようとする。

＊研究の年次計画における主な取組み

- 1 年次…教員の ICT 活用に関する実態を把握し、ICT 活用能力の向上をねらいとした基礎研修（慣れる）
- 2 年次…ICT を効果的に活用した授業づくりと児童生徒の情報活用能力の向上に向けた取組み（活用する）
- 3 年次…児童生徒が情報活用能力を生かして、学びを深めようとする授業づくり（深める）【今年度】

研究内容（3年次）

【ICT 活用基礎研修】

- ・ 児童生徒が使えるような ICT の機能やアプリ、情報活用能力について教員が学ぶ。

【チーム研修・グループ研修】

- ・ 児童生徒が教科等の目標を達成するために、ICT を効果的に活用した授業づくりと実践、振り返りを行う。

研究方法（3年次）

- ・ 「デジタルとリアルベストミックス」を意識して、授業や教材を検討し実施する。
- ・ 学部ごとに普段の学習集団でチームを編成し、チームごとに取り組む。
- ・ チームで「学習デザインシート」を作成し、ICT を活用した授業実践を行う。
- ・ 授業実践後、チームごとに振り返りを行う。
- ・ 公開授業研究会を開催した。各学部から 1 チームが代表授業を行った。代表チームの学習デザインシートの検討を各学部ごとに実施した。また、当日の事後研究会（StepUpTalk）では、助言者から指導・助言をいただいた。
- ※SUTとは、Step Up Talk の頭文字を取り、授業の良かった点や前向きなアイデアを出し合い、活発な話し合いになるようにした。

＊研究計画

月 日	形 態	内 容
4/24 (水)	新任者	I C T 活用基礎研修①
5/8 (水)	全体	全体研究会①
5/22 (水)	グループ	学部研修①
6/19 (水)	全体	I C T 活用基礎研修②
6/26 (水)	チーム	チーム研修①
7/10 (水)	チーム	チーム研修②
7/17 (水)	グループ	学部研修②
8/22 (木)	チーム	チーム研修③
8/28 (水)	グループ	学部研修③
9/11 (水)	チーム	チーム研修④
9/18 (水)	チーム	チーム研修⑤
9/25 (水)	チーム	チーム研修⑥
10/9 (水)	チーム	チーム研修⑦
10/11 (金)	全体	公開授業研究会
10/23 (水)	チーム	チーム研修⑧
11/6 (水)	チーム	チーム研修⑨
11/27 (水)	チーム	チーム研修⑩
12/4 (水)	グループ	I C T 活用基礎研修③
12/10 (火)	グループ	I C T 活用基礎研修④
1/10 (金)	グループ	I C T 活用基礎研修⑤
2/26 (水)	全体	全体研究会②

＊学習デザインシート

授業づくりの際に児童生徒の実態や目標を踏まえて ICT を効果的に活用する方法を考えることができるようにした。一般的な学習指導案に近い馴染みのある Word の形式にし、授業づくりや教材準備に時間をかけられるようにした。「3 授業づくりの視点」とし、児童生徒について、教材観、指導観などの要点をまとめ書くようにした。簡潔かつ授業の流れが分かりやすい様式にした。

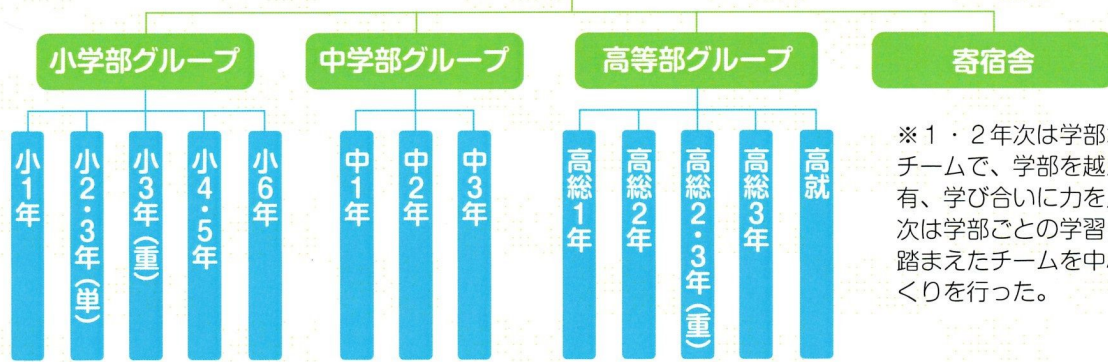
学習デザインシートの 3 枚目は、授業の振り返りとなっている。「6 評価」では、子どもの姿、教師の指導、ICT 活用、各チームで話し合い記録できるようにした。「7 成果と課題、今後に向けての改善策」を話し合い、次の授業や他教科などで実践を生かせるようにした。

○学部△△科 学習デザインシート

日 時 令和 6 年 10 月 11 日 (金) ▲▲:▲▲～□□:□□
場 所 ○○室
児童生徒 ○学部△△年 □名
授業者 ▲▲▲▲(T1) □□□□(T2)

- 1 授業名 □□□□□□□□□□□□
- 2 目標
・□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ 【知、技】
・□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ 【思、判、表】
・□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ 【学、人】
- 3 授業づくりの視点（児童生徒の実態、教材観、指導観、ICT の効果的な活用、授業の工夫など）
□□□□
□□□□
- 4 本時の流れ

時 間	学習内容	○発問・指示 ◇支援 ◎評価 ★ICT 活用のポイント（教材教具）
	○はじめの挨拶 ○学習内容の確認 ○課題の確認 例：△△県の有名な観光地について調べて、「行ってみたい観光地ベスト 3」を決めよう！	★動きや音のついたスライドを TV 画面に映して説明することで着目できるようにする。
	1□□□□□□□□	◇□□□□□□□□□□ ★□□□□□□□□□□(Keynote)



※1・2年次は学部オープンของทีมで、学部を越えた情報共有、学び合いに力を入れ、3年次は学部ごとの学習グループを踏まえたチームを中心に授業づくりを行った。

✳️公開授業研究会

◇代表授業について

①小学部6年 音楽科「リズムであそぼう～ボディーパーカッションをつくろう～」

助言者……県立楯岡特別支援学校大江校 教頭 青柳 リエ子 氏

②中学部2年 美術科「おもしろ写真をとろう」

助言者……県立鶴岡養護学校おひさま分教室 教頭 工藤 隆範 氏

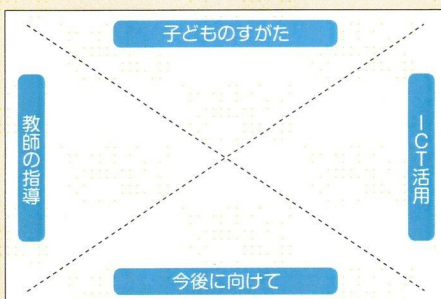
③高等部3年 総合的な探究の時間「修学旅行報告会をしよう」

助言者……県教育局特別支援教育課 指導主事 梶沼 彩子 氏



◇事後研究会について

事後研究会を Step Up Talk (SUT) とし、参加者はもちろん、授業者が達成感を得られる活発で前向きな話し合いになるようにした。良かった点に注目し、「子どもの姿」「ICT活用」「教師の指導」「今後に向けて」の視点から、授業のねらいを達成できたか、ねらいを達成するための活用になっていたかを中心に話し合いを進めた。



✳️SUTで使用したシートの様式

・付箋に良かった点や今後に向けてのアイディアを書き、話し合いグループごとにまとめた。

・授業者からは、指導や支援について認められる機会になり、「嬉しい気持ちになれました。」の声が多数。

代表授業



※QRコードより学習デザインシートをご覧いただけます。

✳️各チームの実践

①小学部の実践

- ・音楽科 「どれみ」でたのしもう (小学部1年)
- ・国語科 「おおきな さつまいも」 (小学部2・3年単一)
- ・自立活動 「やってみよう!」 (小学部3年重複)
- ・生活科 「調理に使う野菜を育てよう」 (小学部4・5年)



②中学部の実践

- ・社会科 「火事からくらしを守る」 (中学部1年)
- ・社会科 「災害からくらしを守る」 (中学部3年)



③高等部の実践

- ・理科 「ものの溶け方」 (高等部総合1年)
- ・社会科 「都道府県について調べよう」 (高等部総合2年)
- ・国語科 「くまさん くまさん～「ぴょん」と「さようなら」を表現してみよう～」 (高等部総合2・3年重複)
- ・職業実習科 「快適な居住環境と介護」 (高等部就労1年)

チームの実践



＊寄宿舎の実践 「ICT を様々な場面で活用してみよう」

●ICT 活用の実態（R5 年度）

- ・ R5 年 6 月からタブレット 1 台が配置された。
- ・ アルバム作りを通して、ICT の基本操作や活用について研修し、利活用の場を増やしてきた。

●研究の柱

- ①行事や余暇活動の中で ICT 利活用を広げる。
- ②ICT 利活用におけるスキルアップを図り日常に取り入れる。

寄宿舎の実践



●研究の内容

（１）行事や余暇活動の中で ICT 利活用を広げよう

～ICT 利活用の場面～

- ・ 学期毎の目標発表や振り返り会の発表
- ・ 舎外活動の事前指導
- ・ 季節の行事の環境づくり
- ・ 特技披露での発表

（２）ICT 利活用におけるスキルアップを図り日常に取り入れよう

～事例～

- ・ Google ドライブでデータの保存と共有
- ・ Google フォームでアンケート実施
- ・ PC で生徒用アルバムを作成
- ・ Word・Excel における悩みの解決



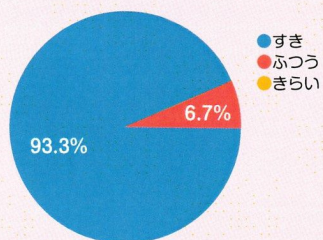
●成果（○）課題（▲）次年度に向けて（☆）

- 『ICT≠タブレット』の概念を払拭し、多様な機器を活用して、行事や活動を運営できた。
- 舎生の実態に合わせ ICT を活用することで、活動に前向きに参加する姿が見られた。参加が難しい舎生も ICT を通した LIVE 中継方式で参加し、同じ空間を共有することができた。
- △ ICT 機器や外部支援装置の操作について、職員全員が操作できるように研修を重ねていく必要がある。
- ☆引き続き ICT 支援部と連携し研修を続けていき、ICT を活用することで、舎生にとっても職員にとっても、より良い効果が生まれるように取り組んでいきたい。

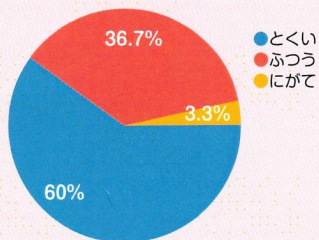
＊まとめ～校内研究の振り返りから～

＊児童生徒の声・姿 児童生徒を対象にアンケートを実施した。（回答人数30人）結果は以下の通り

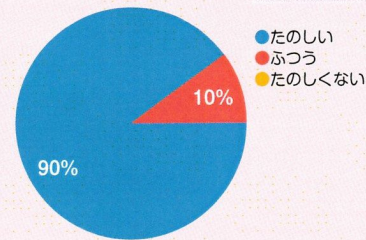
●タブレットを使うことは好きか。



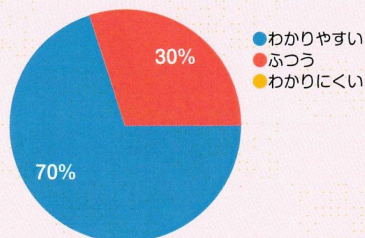
●タブレットを使うことは得意か。



●タブレットを使うことは楽しいか。



●タブレットを使った授業は分かりやすいか。



○使ったことのあるアプリ

- ・ Keynote ・ Pages ・ Numbers ・ iMovie ・ Google 検索 ・ Google フォーム
- ・ Google ドライブ ・ YouTube ・ 写真 ・ 算数アプリ ・ お絵描きアプリ
- ・ ひらがなアプリ など

○タブレットを使って良かったことや楽しかったこと

- ・ 分からないことを調べることが楽しい。
- ・ 調べ学習が楽しい。
- ・ 授業で先生が使うと分かりやすく学べて良かった。
- ・ プレゼンテーションができてすごいと思った。
- ・ アプリでひらがなを勉強して楽しかった。
- ・ 英語のスペルを検索すると意味や読み方が分かって良かった。
- ・ 絵が描けるアプリが楽しい。



＊研究（3 年次）の主な成果（○）と課題（▲）、今後の展望（☆）

- 教師がタブレットの操作に慣れ、教材準備の時間を短縮できるようになるなど、効果的に使うことができるようになった。
- Keynote でオリジナル教材作成や GarageBand を音楽の授業で活用するなど、教師の活用の幅が広がった。
- 児童生徒が、タブレットで調べたり、まとめたりするのに効果的な面があることに気づき、意欲的に授業に向かうことができるようになってきた。
- 視線入力等の個々に応じた支援も進み、約束を繰り返し伝えたことで、児童生徒がルールを守り、落ち着いて使用できるようになってきた。
- ☆「デジタルとリアルのベストミックス」を大切に、双方の良さを生かした授業づくりを行っていく。
- ☆情報活用能力育成に向けた指導に力を入れ、使い方のルールやモラルについて研修していく必要がある。

研究のまとめ



教育のあけみ 第46号

- 発行日 令和 7 年 2 月 28 日
- 発行所 山形県立新庄養護学校
- 住所 〒996-0002
山形県新庄市大字金沢字金沢山
1894 番地の 4
TEL 0233-22-3042
- 代表者 校長 伊藤 順子

新庄養護学校ホームページでは、学校の紹介や学習の様子を掲載しています。御覧ください。

